

港区立赤坂小学校
令和3年度 授業改善推進プラン

1 区学力調査の結果を踏まえた課題

国語	区の平均正答率と比較すると、ほぼ同じもしくは上回っている。内容としては、どの学年においても「書くこと」が課題となっている。「言語の特徴や言葉のきまりに関すること」についても十分でなく、このことが「書くこと」の課題につながっている面もある。また、書くことを決めること自体に難しさが見られる。低学年は経験したことや想像したこと、中学年は関心のあることから、高学年は考えたことなどから自分が書きたいことを決める過程を大事にしていく必要がある。他教科、他場面へも活用できる力となるとよい。
社会	区平均と比べてみると、全てにおいて、2～3ポイントの差で下回っている。知識が足りないことも理由の一つではあるが、社会科の本質は、資料やデータを読み取り、活用して推測する（思考・判断・表現する）ことである。実際、区学力調査の問題は、最低限の知識と社会的な常識さえあれば、資料から正答にたどり着くことができる良問であった。データ理解や分析の能力が低いことは課題である。また、それができないと、受け身の学習になり、「主体的に学習に取り組む態度」にはつながらない。よって、写真・図、グラフや表を正しく理解し、そこから何が考察できるかを思考する能力を高める必要がある。
算数	学力調査の結果は、区平均を上回ることができた。しかし、どの学年においても「基礎的な力」は身に付いているが、活用する力に課題がある。また、既習事項を基にして、筋道を立てて考え適用問題を解く力が弱いところが課題である。基礎基本を論理的に説明したり、思考力を要する課題をより多く取り組ませたりする必要がある。校内研究を通じて、指導方法を改善し、児童の知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成する必要がある。
理科	区の平均正答率と比較すると、第5学年は区平均を上回っているが、第4、6学年はほぼ同じ、もしくは下回っている。どの学年も、観察や実験等の学習に意欲的に取り組むが、その方法や結果を知識として理解したり、考察したりすることに課題がある。学習内容について、日常生活と関連付けたり、既習事項と結び付けたりして、理解を深めることができるようにする。

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字やローマ字を含む言語の特徴、きまりを理解し活用する力【知識及び技能】 テーマに沿って書きたいことを決め、自分の考えが伝わるように効果的に書く力【思考力、判断力、表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で短時間でも言語に触れる学習を行い、継続的に練習や活用を繰り返し、習慣化していく。 書きたいことを決めるときは、イメージマップや表などを活用して書きたいことのイメージを広げたり整理したりする。必要に応じて材料集めを先に行う中で、書きたいことを決めることも有効である。 「文章や表現のモデルを示す」「効果的な書き方のポイントを具体的に示す」「情報と関連付けて整理しながら書けるようにする」など、見通しをもって書けるように指導の工夫をする。 主語・述語、話の順序、指示語、意見と理由の区別、話の中心、段落のつながり、文章の構造など基本的な事柄を確実に押さえ、論理的に考えるよう指導を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な社会科の知識を身に付け、適切な資料を使ってまとめることができる。【知識及び技能】 社会科の学習内容の特色や相互の関係を資料を通して多角的、多面的に捉え、考察したことを適切に表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】 社会の一員として課題を捉えて、問題解決 	<ul style="list-style-type: none"> ①教科書の内容を確実に把握するだけでなく、学習内容の背後や土台にある知識を、教師が積極的に身に付け、授業者としての見識を深める。時間や手間はかかるが、この効果は大きく、後述の②～⑤に全てに関わる。 ②①の知識を基に、重点的に学ばせるべきねらいや目標・課題を明確にする。それらを達成するため、教科書を基にして、授業内容の重点化を図ったり、順番の入れ替えをしたり、指導計画の再構築を考える。（教科書の全ての内容、資料を同じ密度で学ばせると、社会科は時間が足りなくなる。また内容を押さえるだけの授業になり、児童の主体的な態度につながらない。）

<p>をしようとする主体的な態度を養い、日本国民、世界市民としての自覚を育てる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p>	<p>③めあてや目標を提示する時に、児童の興味・関心・意欲をかきたてる資料の開発をしたり、資料の取捨選択をしたり、資料の提示の仕方を工夫したりする。社会科では、教科書の資料をそのまま見せたり解説したりしても、知識は深まらないし、思考・判断力も伸びない。</p> <p>④児童が身を乗り出すような課題設定や発問の工夫をする。そのためには、児童が等しく知識がないと仮定した場合、ある程度の知識をもつ児童がいると仮定した場合、学習を進める中で全員が等しく知識を獲得できた場合のいずれかを常に考慮に入れ、課題設定や発問を決める。知らないからできない、考えが思い浮かばないという思考を児童にさせないための課題設定をする。</p> <p>⑤児童に社会科が重要であると認識させるために一番大切なことは、学習内容が自分の日常生活に関係があることや、自分の未来に大きく関わるものであることを実感させる学習を取り入れる。机上の知識として学習させると、つまらないものになるし、次の学習への意欲にもつながらない。必ず、今の自分との関連性や未来の自分への影響を学習に入れること。自分も社会の一員であり、世界を構成する一人であることを強く認識できるような授業内容を考える。その点からも①は非常に重要な要素となる。</p>
--	--

算数	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の性質の理解と作図能力を向上させる。 【知識及び技能】 ・ 既習事項を活用して、自力解決できる能力と論理的思考力を高める。 【思考力、判断力、表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物の操作や動作化を多く取り入れて、問題の理解を深めさせる。また、図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、図形の性質を見出し、その性質を筋道立てて説明する指導を充実させる。高学年では、作図の適用問題を反復練習して、技能を向上させる。 ・ 児童が論理的思考力を高めるために、自分の考えをもち、ペア・グループ学習や集団検討を通して、「図や表やグラフなど」と「言葉」を結び付けて表現する指導を充実させる。数学的な表現（言葉、図、式、グラフ等）で説明する活動を取り入れて指導する。校内研究を通して、思考力、判断力、表現力を育てる授業を工夫し、論理的思考力を高める授業を展開することで、児童の知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成する。 ・ 日常生活に算数が活用できることを実感できる活動を多く取り入れ、思考力・判断力を育む。

理科	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然事象に対する基本的な概念や知識、規則性の理解を深める。【知識及び技能】 ・ 観察・実験の結果を解釈し、結論を導く。 【思考力・判断力・表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予想を基にした観察・実験を行う。導入時に、学習内容に関する体験をさせたり、教具を工夫したりして、意欲的に学習に取り組ませる。 ・ 観察・実験の結果から、自分の考えをまとめさせる。観察や実験の結果から導いた自分の考えをノートに書かせ、それを基に話し合いをさせ、友達のと比較したり、多様な考えを知ったりすることができるようにする。 ・ グループで、考えを深めさせる。実験結果から導かれた考察を、グループで話し合い、言葉、グラフや表等を活用してまとめ、発表し合うことで、表現する力を高める。 ・ 実験等を振り返る自己評価をし、学習内容の定着や学習態度の向上を図る。また、自然事象と日常生活を関連して振り返っている児童を取り上げ、全体で共有し、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や活動によって、気付いたことや楽しかったことなどについて多様な方法で表現し、考えを深める資質能力を高める。 【思考力・判断力・表現力等】 ・具体的な活動や体験を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 【知識及び技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉、絵、動作、劇化などに加えタブレットなど情報機器を使用した表現方法についても指導を行う。表現活動において、相手に伝えるだけでなく、自らの学習を振り返り、自分自身の成長や次回の学習への意欲につながる学習形態の工夫をする。 ・人的・物的資源等を、校内だけでなく地域等の外部の資源を含めて活用しながら、児童が多様な体験や活動を設定する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいことを音楽で表現できるようにする。 【知識及び技能】 ・表現活動において、自分の思いや意図をもって演奏の良さを見出したり音楽を味わって聴いたりする。 【思考力・判断力・表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しをもったり活動を振り返ったりしながら学んだことや自分の変容を自覚したりできるよう発問を工夫したり対話によって自分の考えをまとめたりできる学習形態の工夫をする。また、粘り強く、個に応じたきかけと支援をする。 ・児童が自分なりのイメージや感情、生活や文化などと関連付けさせ、振り返ったり比較したりしながら、音楽的な見方や考え方を働かせられるようにする。 ・共通事項を手がかりに知覚から感受へのプロセスを大切にしながら音楽を聴く耳を育てる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・材料などの形や色やその組み合わせの感じを理解し、用具や表現方法を選んで適切に扱って表現する。 【知識及び理解】 ・材料や行為などをもとに自分なりのイメージをもち、どのように表すか考える。作品のよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・つくり出す喜びを味わい、主体的に活動に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の材料を知る体験を通して、形や色などの造形感覚を育てる。用具を正しく扱えるようになるために、ICTや動画を活用し視覚的な理解を促すとともに、確実に習得できるように繰り返し使用する機会を設ける。 ・感覚や行為を基にすることに加え、映像や資料、美術作品や友達の作品などを見て自分なりの感じ方を広げイメージをもてるようにする。また、振り返りで工夫したことや作品について説明することや友達の作品のよさについて考えることで価値付けができるようにする。 ・手や体全体を十分に働かせて活動し、友達と互いの考えのよさを共有する場を設けて、つくる喜びを感じさせるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住や消費教育などについて、日常生活に必要な基礎的な知識と技術を獲得できるようにする。 【知識及び技能】 ・学習や実際の生活において課題を発見し様々な解決方法を考えられるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科としての知識を学ぶ時には、一方的な知識の押し付けにならないように、児童同士の話し合い活動や調べ学習、ICTを使った学習などを意図的に取り入れるようにする。 ・家庭科で学んだことが授業の中だけで終わらないように、他教科との連携を図ったり、実生活の中で生かせる場面を見付けたりすることができるよう、指導方法を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の運動遊び・運動の楽しさに触れ、その行い方を知り、基本的な動きや技能を身に付けられるようにする。 【知識及び技能】 ・ 自分の課題を見付け、その解決のために工夫して取り組むことができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】 ・ 日常的に運動に親しみ、体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じながら、仲間と仲良く意欲的に運動することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の運動遊び・運動の中で、様々な体の使い方を体験させ、多様な動きを育てる活動を多く取り入れるよう、授業方法を工夫する。 ・ ワークシートや授業の指示などを工夫したり、グループでの教え合い活動を取り入れたりする。ICTを活用し、動画等で自分の動きを分析し自分の課題がどこにあるのか気付かせ、スモールステップの手順を示しながら指導を行う。 ・ コロナ禍による運動量の低下が顕著なため、休み時間等でもできるだけ外遊びをするように呼び掛け、運動量とその時間を確保する。体づくりの運動遊びやゲーム性のある運動を通して、コミュニケーションを必要とする運動に取り組ませる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<p>英語によるコミュニケーション能力の育成。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付ける。 ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて自分の考えや気持ちなどを伝え合う。 ③ 外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業づくりの工夫 <ol style="list-style-type: none"> ① 単元構成→small step で、語を身に付けていけるよう学習する。また、繰り返し習った英語やこれから学ぶ英語をインプットする場を入れて、単元の学習内容を考えていく。 ② 必然性のあるコミュニケーションの場の設定→本時や単元の目標を明確にし、それに向けて学んだり、練習したりするという流れにする。 ③ 4技能を高める言語活動→small talkなどで、前回の復習や本時で取り扱う語を積極的に取り入れ、「繰り返し」を意識し、指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の工夫、発問の工夫、学習形態の工夫が求められる。 低学年、中学年、高学年における、それぞれの学習のゴールを定め、担任が各単元の構成をしっかりと立てることができる学習計画シートなどを作成し、NTとのやりとりもスムーズにできるように工夫していく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が道徳的な問題に対して自分事として考えることができるように、導入では問題意識をもって主題に臨むことができるようにする。展開では、教材や人物への「自我関与」ができるように、体験的な活動を取り入れるなど仕掛けや手立てを工夫していく。 ・ 学年の実態に合わせた教材を選択し、ICTも活用して、自分事として考えを深められる授業改善をする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的、実践的な集団活動を通して、課題を見出し、解決するために意見交換をしたり、話し合ったりすることができるようにし、よき集団の一員であろうとする態度の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの係や委員会活動、クラブ活動を通して、集団の中での個々の役割を認識させ、責任をもって取り組ませる。 ・課題や問題が発生した時の、対処の方法や話し合いの仕方を伝え、考えさせる。 ・学級会や学校行事等で実践する機会を設け、多くの課題に直面させ、実際に話し合い活動や協働的な活動をすることで、集団の一員として活動することの楽しさや充実感を味わわせる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ①「課題設定・解決能力」 ②「思考力」 ③「コミュニケーション能力」 ④「表現力」 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や教科につながる単元を設定することで、身近なことに問題意識をもてるようにする。 ・1人1台のiPadを活用することで、情報収集・情報処理能力を伸ばす。また、プレゼンテーションソフトを活用して発表する経験を積ませることで、表現力の育成につなげる。 ・「自分には何ができるか」「何がしたいか」を児童が考え、話し合い、実践にうつす形態の授業展開を多く取り入れていくことで、思考力やコミュニケーション能力の育成につなげていく。